

宜野湾高校の生徒達へ（45）

2020.9.29

『宜野湾高校の生徒達へ（44）』で「不協和音」（樺坂 46）を取り上げる際、樺坂を検索していたら「サイレント・マジョリティー」というデビュー曲があることを知った。

どこの国の大統領が言っていた（曲解して）
声を上げないものたちは賛成していると
選べるのが大事なんだ 人に任せるな
行動しなければNo と伝わらない



「サイレント・マジョリティー」とは「物言わぬ多数派、積極的な発言行為をしないが大多数である勢力」（Wikipedia）。「どこの国の大統領」はニクソン大統領（米）と思われる。以下、Wikipedia から一部引用。今回は皆さんの読解力が問われる。最後まで読み通そう！

ニクソン大統領が1969年に「グレート・サイレント・マジョリティー」としてこの語を用いた。当時、一部の学生などによるベトナムからの即時全面撤去を求める反戦運動が行われており、メディアなどから注目を受けていた。大統領選挙における公約として「平和裡の終戦」を掲げていたニクソンは、「そういった運動や声高な発言をしないアメリカ国民の大多数は、ベトナムからの即時全面撤退を求めている」という意味でこの言葉を使った。

「どこの国の大統領が言っていた」のあとに「(曲解して)」のフレーズがある。皆さんは「このフレーズがなぜ挿入されているか」がわかるだろうか？ 「曲解」とは「(相手の言動などを)素直でなく無理に曲げて解釈すること」(明鏡国語辞典)。Wikipedia で引用した上の文章には、続きがある。

論理的に言って「即時全面撤退を求める反戦運動を行わない」ことは「デモに参加するほどにはそれを求めている」ことを示すに過ぎず、ここには飛躍が伴う。

「即時全面撤退を求める反戦運動を行わない」から「即時全面撤退」に反対ではなく、「デモに参加するほど即時全面撤退を求めている」のである。それなのに大統領が「そういった運動や声高な発言をしないアメリカ国民の大多数は、ベトナムからの即時全面撤退を求めている」というのは、「飛躍」(論理や考え方などが順を追わないで飛び越して進むこと[Weblio 辞書])があり、「曲解」しているのではないかと？

私は、作詞家が「(曲解して)」を挿入した理由をそう考えたが、皆さんはどう読んだだろうか？ 私と違う読み方をした生徒がいたら、ぜひ教えてほしい。

国語の授業のようになってきたが、文章をより正確に理解するためには、プロセスを踏むことが必要なのだ。今、なぜこのような説明をしているかを皆さんは理解しているだろうか？ アイドルグループといわれている樺坂 46 の歌詞には、実は深いメッセージが隠されていることを理解してほしいからだ。「そんなこと理解しています！」という生徒が多数、本校にいるならば、実に頼もしい。

今回は、「サイレント・マジョリティー」（樺坂 46）と政治の話に関連づけた内容だった。これまで、『宜野湾高校の生徒達へ』では政治の話題を取り上げなかったが、18歳選挙権、18歳成人と私たちを取り巻く社会が変化していく中、政治の話題を取り上げないわけにはいかない。しかし、学校で政治を話題にすることは難しい。というのも、政治に対する考え方がいろいろあるからだ。ある立場から意見を言うと、別の立場から異論が出る。政治を扱う際は、様々な考え方があることに留意する必要があるのだ。

ここで選挙について触れると、どの候補者に投票するかについては、候補者の公約を検討する必要があるし、正確な知識を持っていないと偽情報を信じてしまう可能性も高い。「選べるのが大事なんだ 人に任せるな」(サイレント・マジョリティー)を選挙権と関連させるならば、政治を託せる候補者の選択を人任せにするのではなく、自分で決定できる力を養う主権者教育に取り組んでいくことも本校の課題の一つであるとの思いが、昨今の政治状況をみるにつけ、強くなる。

今回は、アイドルグループから深い学びを得た。アンテナを広く張って情報を収集し、深く掘り下げることの大切さと、アイドルグループを見くびってはならないことを学んだのだった。



沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎